

横浜市立瀬谷さくら小学校 学校評価報告書 (平成25年度～平成27年度)

共通取組 重点取組	平成25年度		
	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな 学力	基礎・基本の確実な習得を旨とし「分かる楽しい授業」作りを行い、自分の言葉で考え表現する子どもを育てます。	市学力学習状況調査の分析を行い、課題を明確にした。また、課題解決のための取組を行い、学力向上を目指した。地域の教育力生かした取組をさらに改善していく。	Ⓐ B C D
2 豊かな 心	規範意識やあいさつを大切に指導を充実させます。ふわふわ言葉等の推奨を通して、自他を大切にできる心や態度を育てます。	スタンダードをもとに生活指導ができてきているか、児童・教職員が定期的に振り返りを行った。今後、保護者への啓発を合わせて行っていく。	A Ⓔ C D
3 健やかな 体	「いきいきキッズ体力向上計画」の実践や朝の特別陸上クラブ等を通して、自分の健康に関心をもって体力向上に取り組む子どもを育てます。	いのちの学習の授業公開を通して、家庭との連携を進めた。学校保健委員会、特別陸上クラブ・合唱クラブ等の取組を通して心身の健康と情操教育の充実を図っていく。	Ⓐ B C D
4 児童・生徒 指導	あいさつ運動が定着し、元気で気持ちのよいあいさつができる子どもを育てます。縦割り活動が充実し、異学年交流による思いやりの心を育てます。	職員会議等で、支援が必要な児童について全職員で情報を共有し、敏速に対応した。今後、いじめ防止基本方針をもとに取り組んでいく。	Ⓐ B C D
5 研究・研 修	授業研究や実践研修等、研修の方法を工夫しながら、授業力の向上に進展を取り組みます。指導主事や大学教授など外部講師を招き、新しい教育の情報を授業に取り入れます。	授業研究会や実践提案、国大との連携等で、授業力向上を目指した研究・研修を行った。授業研究を通して、さらに教師力の向上を図り、児童の学力向上に努めていく。	Ⓐ B C D
6 地域連携	学校運営協議会を中心に、地域協働型参画型の学校作りを進めます。さくらの子基金の活用により、学校支援活動が充実して行われるようになります。	地域協働型参画型の学校作りができています。さくらの子基金が発足され学校支援活動が充実した。学校運営協議会を中心とした地域との連携をさらに進めていく。	Ⓐ B C D
人材育成 組織運営	若手教職員育成のためのメンターチーム「チームさくら」では、主体的な授業研究の他に全職員向けの不祥事防止研修を企画運営することで、全教職員のコンプライアンスの向上を図ります。学校創造委員会の横断的な組織の機能が有効に活用され、適時、課題解決と新たなプランニングが迅速に行われるようになります。	若手育成のための「チームさくら」の取組、授業研究会、実践提案を組織的に進め、授業力の研鑽に努めた。不祥事防止研修を通し、コンプライアンスの向上を図った。必要に応じて、管理職が職員の勤務・指導状況を的確に助言・支援を行った。学力向上やいじめ防止等の課題に敏速に対応するため、学校創造委員会やいじめ防止対策委員会をさらに活用していく。	Ⓐ B C D
小中一貫 教育推進 ブロック内 相互評価 結果	○学力向上をめざし、市学力学習状況調査の分析活用組織的に取り組んでいた。 ○中学校と学習課題の共有をすることができたため、小中学校が連携して学力向上に向けて取り組む下地ができた。 ○学校運営協議会を通じた地域との連携が様々な場面で生かされていた。		
学校関係者 評価結果	○規範意識・学習指導では、アンケート(児童)からも学校の努力が伺える。児童への熱心な指導の成果が表れている。アンケートで、学校で気持ちよく過ごせていない子が15%いるのが気になる。この割合を減少させることを期待する。 ○地域の教育力の活用が十分に図られ、教職員の努力と相俟って学力向上に繋がっている。今後も継続していただきたい。 ○児童・保護者・地域・学校の協働の成果が様々な場面に表れていた。		
評価結果に 対する 学校の見解	○支援が必要な児童について、全職員で情報を共有し敏速に対応していきます。 ○いじめについて、丁寧な実態把握に基づく早期発見・早期対応といじめの未然防止に努めます。 ○保護者・地域・学校で地域協働型参画型の学校づくりを進め、教育環境の充実を図ります。		
学校経営 中期目標 達成状況	学校教育目標を達成するために、学校運営協議会を中心に、児童・保護者・地域・教職員が協働して子どもの将来に責任をもつ、地域協働型参画型の学校作りを進めることができた。今後、児童の基礎・基本の確実な習得をめざし、教職員の授業力向上の取組と地域の教育力を生かした教育支援の充実をさらに図りながら、学力向上に取り組んでいく必要がある。		

共通取組 重点取組	平成26年度		
	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな 学力	市学力学習状況調査の分析から各学年における課題を明確にし、課題に応じた戦略を立て、実践していきます。	市学力学習状況調査の分析から各学年行い、重点的に指導すべき項目を挙げ、指導してきた。地域の教育力も活用し基礎力向上につなげた。	A Ⓔ C D
2 豊かな 心	あいさつ運動、ふわふわ言葉の推奨、命の学習を通して、思いやりの心や自他を大切にできる心や態度を育てます。	児童会の活動を通して、進んであいさつをする子、思いやりをもって行動する子を育ててきた。いのちの学習も充実させ、自他を大切にできる心や態度を育てた。	A Ⓔ C D
3 健やかな 体	特別陸上クラブ、いきいきキッズタイムの活動を通して、規則正しい生活を身につけ、自ら進んで体力向上に取り組む子どもを育てます。	特別陸上クラブや中休みの取り組みにおいて、自ら体力をつけようとする子を育ててきた。家庭にも協力してもらい規則正しい生活が身についた。	Ⓐ B C D
4 児童・生徒 指導	たてわり活動、ペア活動を通して、異学年間交流を進め、思いやりの心を育てます。また、児童への聞き取りを迅速に行い、いじめに対して早期解決を図ります。	学年研や職員会議での情報交換を密にし、全職員を上げて児童理解に努めてきた。たてわり活動を通して、異学年間での児童同士のふれあいの機会を多く設けた。	Ⓐ B C D
5 研究・研 修	生活科・理科において授業研究を行い、外部講師を招いて授業力向上を図ります。校内実践研修を通して職員のスキルアップを図ります。	外部講師を招いての重点研究、若手中心のメンター授業研を通し、表現力を身に付けるための言語活動の在り方について学び、授業力向上に努めた。	Ⓐ B C D
6 地域連携	学校運営協議会を中心に、地域と連携した学校づくりを進めます。算数サポートやクラブ支援など地域参画型の児童支援を進めます。	さくらの子応援隊として算数サポート、クラブ支援、登下校時の見守り等、地域参画型の児童支援が充実してきた。学校運営協議会を中心とした地域との連携をさらに進めていく。	Ⓐ B C D
人材育成 組織運営	メンターチーム「チームさくら」では、主体的な授業研究を行い、授業力向上を図ります。また、不祥事防止研修を企画運営することにより、全職員の意識の向上に努めます。学校創造委員会、教務会と4部会を有機的につなぎ、部会長を中心とした迅速な組織運営を進めていきます。	若手が進んで授業研究会に取り組む、授業公開を通して授業力の向上を図った。学年内での話し合いを密にし、ベテランから若手へと実践を通じた指導ができていく。学校創造委員会、4部会を中心とした組織的な学校運営に取り組んできた。今後さらに各部会を有機的につなぎ、会議等の精選を行っていく。	Ⓐ B C D
小中一貫 教育推進 ブロック内 相互評価 結果	・市学力学習状況調査の分析が行われ、各学年の傾向やその課題に戦略的に取り組んでいた。 ・地域の教育力を生かし、学力向上、体験的活動、児童支援の取り組みが充実し、成果を上げていた。 ・あいさつ運動の定着が図られ、子どもたちがより良く人と関わり合うことができていた。		
学校関係者 評価結果	○全体的に前向きな取り組みは評価できる。今後さらに児童や保護者と意識を共有化し、楽しい学校作りのための実効力のある体制作りを望む。 ○あいさつ運動は引き続き取り組んでいただきたい。保護者に協力してほしい部分もあるので、いかに家庭に周知するかが課題である。 ○地域の教育力が十分活用され、教職員の努力と相まって児童の学力向上や体力向上につながっている。		
評価結果に 対する 学校の見解	○学力向上に向けて児童の実態を把握するとともに、地域・家庭の協力も得ながら、具体的な取組を行います。 ○引き続きあいさつ運動に取り組むとともに、一人一人に寄り添った「みんなが楽しい学校」を目指します。		
学校経営 中期目標 達成状況	児童の基礎・基本の確実な習得のために、学校運営協議会を中心とした地域・保護者の協力による学習支援を行った。その結果、児童の学習意欲の向上、基礎学力の定着を図ることができた。さらに重点研究、メンターチームの授業研究を通して、授業力の向上に取り組んできた。今後さらに地域の教育力を生かしながら学力向上及び豊かな心の育成に取り組んでいきたい。		

共通取組 重点取組	平成27年度		
	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな 学力	市学力・学習状況調査の分析から各学年における課題を明確にし、課題に応じた具体的な戦略を立て、実践していきます。また、家庭との連携を深め、学習意欲を高めていきます。	児童の実態を把握し、課題を明確にすることで、指導の方針を立て、わかりやすい授業を心がけた。家庭学習や補充学習を充実させ、基礎基本の定着を図った。	A Ⓔ C D
2 豊かな 心	引き続き、あいさつ運動、ふわふわ言葉の推奨、命の学習を通して、思いやりの心や自他を大切にできる心や態度を育てるとともに、月一回具体的な目標を決め、継続した取組にしています。	生活目標の振り返りをクラス毎に毎月行い、あいさつ運動の励行、思いやりの心の育成を図った。教科等との関連を図りながら命の学習を充実させ、命を大切にできる心や態度が養われた。	A Ⓔ C D
3 健やかな 体	市体力テストの結果から、体力面での課題を明確にし、改善に向けた取組をしていきます。また、特別陸上クラブの活動を通して、規則正しい生活を身に付け、自ら進んで体力向上に取り組む子どもを育てます。	特別陸上クラブや特別合唱クラブの朝練を通じて、規則正しい生活を身に付けるとともに、体力の強化に取り組んだ。年間を通じて縄跳びの活動を取り入れ、自ら体力向上に取り組む子どもを育てました。	Ⓐ B C D
4 児童・生徒 指導	たてわり活動、ペア活動をより充実させ、異学年間の交流を深いものとし、思いやりの心を育てます。また、理解の充実を図り、一人一人に寄り添った対応をしていきます。	児童支援専任を中心に、児童一人一人を見取り、職員会議で取り上げるなど、学校全体で児童理解に取り組んだ。たてわり活動を充実させ、他学年を思いやる気持ちが育った。	Ⓐ B C D
5 研究・研 修	生活科・理科においての授業研究をさらに深め、思考力・表現力を育成するための授業の在り方について研究していきます。より実践的な校内実践研修を行い、職員の授業力向上を図ります。	言語活動を充実させ、思考力を育成するための授業の在り方について研究していきます。より実践的な校内実践研修を行い、職員の授業力向上を図りました。	Ⓐ B C D
6 地域連携	学校運営協議会を中心に、地域や保護者と連携した学校作りを進めます。登下校時の見守り、学習支援や交流活動など、より地域の教育力を生かした学校作りを進めます。	支援隊による見守り、さくらの子応援隊による教育支援が充実してきた。また、学校運営協議会の活動を保護者や地域の方々に周知する活動も行うことができた。	Ⓐ B C D
人材育成 組織運営	メンターチーム「チームさくら」では、若手の自主的な研究により授業力向上を図ります。また、学年研を密にし、実践を通じた人材育成に努めます。学校創造委員会と各学年との連絡を密にした風通しのよい組織運営に努めます。	チームさくらでは、互いに授業を見合い、先輩教員からの指導を受けることで若手の授業力が向上してきた。学校創造委員会と各学年の連携を密にし、スムーズな学校運営を行うことができた。今後さらなる会議の精選を行ってきたい。	Ⓐ B C D
小中一貫 教育推進 ブロック内 相互評価 結果	・地域や保護者と連携した学力向上への取組、安心・安全な学校作りが成果を上げてきている。 ・児童支援専任を中心に学校全体で児童支援にあたる体制が確立し、児童一人一人に応じた支援が行えている。 ・基礎学力の向上に努め、9年間を見通した指導の一体化が成果を上げつつある。		
学校関係者 評価結果	○重点取り組み項目のどれに対しても真摯に取り組む、ほぼ評価通りの結果を出している。学習やクラブ活動で朝早くから頑張っている姿に感心する。 ○アンケートの質問の項目や実施の仕方で子どもたちの意識も変わるので、アンケートの作り方を検討する必要があるのではないか。 ○子どもたちが自信をもつような支援をお願いしたい。		
評価結果に 対する 学校の見解	○結果を踏まえ、子どもたちの達成感や自己有用感を得られるような支援をしていきます。 ○学力向上に向けて引き続き、地域や家庭の協力を得ながら基礎・基本の定着、表現力の育成に取り組む。		
学校経営 中期目標 達成状況	学校運営協議会を中心とした地域・家庭の協力のもと、算数補充や算数サポートなどの学習支援を行い、児童の学習意欲の向上、基礎学力の定着を図ってきた。校内授業研究やメンターチームでは、教職員が互いに授業力の向上に励んだ。さらにあいさつ運動や命の学習を通して、子どもたちの心を育ててきた。今後さらに、地域の教育力を活用し、児童の能力を高めていきたい。		

※当該年度の達成状況： A…十分達成 B…概ね達成 C…努力必要 D…改善必要